

1-2. 利便性の高い道路網の形成

(1) 現況と課題

本町の西側を南北に通過する国道4号は、4車線化整備が完了し円滑な車両通行を実現しました。また、主要地方道宇都宮烏山線も仁井田鴻野山バイパスが供用開始され、本町における縦・横軸となる主要な幹線道路の整備はほぼ完了しています。

しかし、県内でも有数の工業地域である芳賀高根沢工業団地へ通じる県道宇都宮向田線では通勤車両が集中し、それに伴い県道宝積寺太田線や町道354号線は朝夕の渋滞を招いており、日常生活にも影響がでています。

本町では、限られた財源の中で有効な道路整備を行うため、平成16年度から道路評価システムを取り入れて、整備する路線や優先順位を決めて道路整備を行っています。生活圏の広域化に伴い宇都宮市をはじめとする周辺市町村へのアクセス性の向上や、町内の円滑な移動に向けた道路網（ネットワーク）の形成と交通量の多い主要な町道の傷みを迅速かつ効率的に修繕することが課題となっています。

利便性の高い道路網の形成を円滑に進めるためには、道路整備の必要性や整備効果についてこれまで以上に情報開示を行い、地域との協力体制を築くとともに、住民との協働による道路整備・維持管理技法の確立も必要になります。

(2) 5年間の政策目標

- ①主要幹線道路（国・県道）を補完する道路ネットワークを形成します。
- ②道路整備の必要性、効果についてわかりやすい情報開示を行い、住民との対話と情報の共有化を実現します。
- ③住民参加による道路整備・維持・管理技法を確立します。
- ④土地区画整理事業と連携して道路整備を進め、生活環境を向上させます。

(3) 施策

1-2-1. 幹線道路の整備

より円滑な道路網の形成に向けて、国道・県道を補完する町幹線道路24路線のうち15路線を道路評価システムに基づき整備を行います。平成22年度までに新設改良道路は8路線中4路線を、舗装修繕路線は8路線中6路線の整備完了を目指します。また、芳賀高根沢工業団地関連渋滞対策をはじめとする3路線の新設改良と、交通量が多く道路の傷みが激しい2路線の舗装修繕にも着手します。

指標	平成16年度	平成22年度
幹線道路整備進捗率 (単位：%)	33%	75%

【事業】

○幹線道路の整備（整備完了路線—10路線）

- ┆ 町道350号線拡幅改良事業費（宝積寺地内：JR東北線並塚県道南踏切の拡幅）
- ┆ 町道436号線道路改良事業費（亀梨地内：台新田公民館東から那須烏山市福岡地内まで）
- ┆ 町道348号線道路改良事業費（宝積寺地内：JR東北線並塚県道南踏切からセントラルガス高根沢営業所付近まで）
- ┆ 都市計画道路宝積寺南通り道路改築事業費（宝積寺地内：阿小前御幸坂から稲荷神社南国道4号交差点まで）
- ┆ 町道419号線道路改良事業費（平田地内：仁井田中央通り終点部の橋梁拡幅）

- ┃ 町道 201 号線舗装修繕事業（光陽台地内：セントラルガス高根沢営業所付近から県道宇都宮烏山線（宝典）まで）
- ┃ 町道 204 号線舗装修繕事業（光陽台地内：高根沢キリスト教会からセントラルガス高根沢営業所交差点まで）
- ┃ 町道 202 号線舗装修繕事業（光陽台地内：たかはし眼科東交差点から県道宇都宮烏山線（ローソン）まで）
- ┃ 町道 354 号線舗装修繕事業（光陽台地内：光陽台のびのび公園東から県道宇都宮烏山線（烏山信用金庫）まで）
- ┃ 町道 243 号線舗装修繕事業（宝石台地内：県道宇都宮烏山線（足利銀行高根沢出張所）から県道宝積寺太田線（情報の森西）まで）

○幹線道路の整備（整備着手路線－5 路線）

- ┃ 芳賀高根沢工業団地関連渋滞対策路線改築事業費（宝積寺地内：県道宝積寺太田線（情報の森西鷺の谷）から芳賀町大塚まで）
- ┃ 都市計画道路宝積寺西通り道路改築事業費（宝積寺地内：セントラルガス高根沢営業所南から中坂付近まで）
- ┃ 町道 525 号先線道路改良事業費（上柏崎・桑窪地内：元気あつぷむら下交差点から芳賀町八ッ木まで）
- ┃ 町道 380 号線舗装修繕事業（大谷・花岡地内：さくら市との町境から県道北高根沢氏家線（星宮神社北）まで）
- ┃ 町道 328 号線舗装修繕事業（大谷・石末地内：県道北高根沢氏家線（大谷集落センター付近）から県道宇都宮烏山線（高野タンス店）まで）

【関連施策】

- 1-1-1 宝積寺駅西第一土地区画整理事業 1-1-3 宝積寺駅及び駅周辺整備事業
- 1-4-1 石綿セメント管更新事業

1-2-2. 主要幹線道路の整備促進

利便性の高い道路網の実現を目指して、地域高規格道路*（国道 408 号）、県道北高根沢氏家線の延伸、県道花岡狭間田線など主要幹線道路の工事着工を関係機関に要請します。

1-2-3. 農道の整備

道路評価システム（農道部門）に基づき整備し、農業の振興と農村環境の改善を図るとともに、生活道路としての機能の充実を図ります。

1-2-4. 道普請事業の推進

町道の維持管理を迅速かつ効率的に行うため、地域住民との協働による道路整備・維持管理の技法を整えます。

1-2-5. 道路管理台帳の整備（デジタル化）と運用

道路管理業務の効率化を図るため、道路管理台帳のデジタル化を進めます。

(4) 効率化目標

①道路整備コストの低減

- 工事コストの低減 ・工事計画、設計の見直し ・技術基準等の見直し ・新技術の採用
- 時間的コストの低減 ・工事期間の見直し

②道路維持管理コストの削減

- ライフサイクルコスト*の低減 ・維持管理の見直し

(5) サービス向上目標

- ・道路ネットワークの形成とともに、道路利用者に対し情報を提供する道路案内情報の整備を検討します。
- ・道路整備の必要性、整備効果（事後評価）の情報発信を強化するとともに住民と対話を行います。
- ・交通規制等で影響を受ける地元住民に理解、協力を得るために、工事施工情報を早期に周知します。